

# 水源の水質管理

## 定期的な水源水質検査

水源の水質は、季節や降雨の影響で大きく変動します。また、取水地点より上流の湖沼において、水道水に臭いをつける植物プランクトンが増殖することがあります。

広域水質管理センターでは、水源水質を監視するため、取水地点上流の湖沼及び河川において、定期的に水質検査を実施しています。



水源での採水

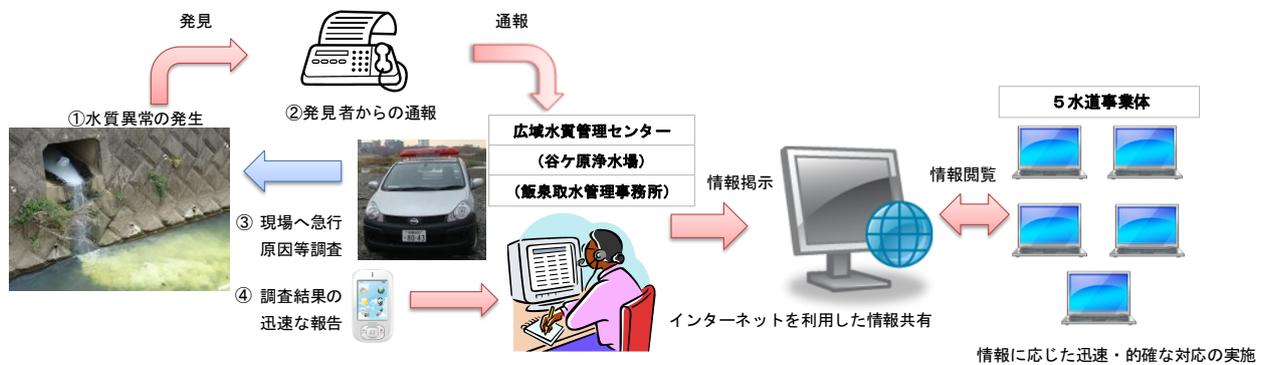
## 水源水質事故への対応

酒匂川及び相模川は、5事業者共通の水道水源です。これらの河川の流域面積は広く、突発的な水質汚染事故が発生する場合がありますため、迅速な対応が必要となります。

広域水質管理センターでは、水源水質事故発生の情報を受信し、その情報を5事業者に一斉発信することで、より迅速な水質事故対応や情報共有を行います(下図)。また、汚染原因物質の特定や除去方法の検討などを実施しています。

水源水質事故は、対応エリアを3つに分けて、酒匂川流域は飯泉取水管理事務所、相模川上流は谷ヶ原浄水場、相模川下流は広域水質管理センターが対応しています。

また、油など汚染物質の流入に備え、定期的な河川巡視や、流域の関係行政機関等と水質事故対応訓練などを実施しています。

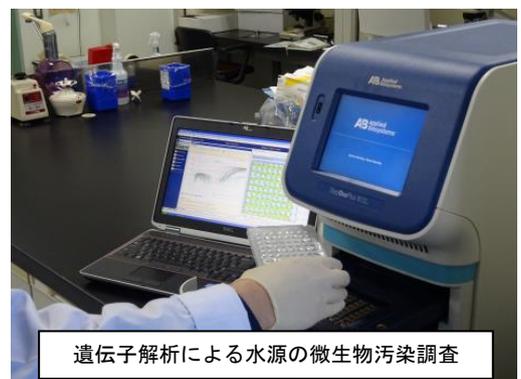


## 水源水質等に関する調査研究

企業団は、水道水質基準値よりも更に厳しい企業団独自の目標値を掲げ、目標達成に向けた取組みを進めています。また、水源で発生する生物障害や水質事故への対応の強化にも取り組んでいます。さらに、国の水道水質に関する委員会や分析方法の調査にも参画しています。

広域水質管理センターは、水源や浄水場の水質課題について、様々な分析機器を用いて、浄水場と連携した調査を実施しています。

また、5事業者の持つノウハウを活用し、水源水質課題の解決に向けた調査に取り組みます。



遺伝子解析による水源の微生物汚染調査